Ⅲ—56　名古屋港に於ける臨海工業地帯の造成について

名古屋港管理組合　正員　鈴木誠一

1. まえがき　（工業立地の臨海指向性）

わが国に於ける工業立地の変遷をみると、明らかに一つの傾向がみられ、原料地立地から消費地立地へ変化して来た。従来は国内の原料及び燃料産地に近いことが、最大の必要條件であつたが、最近では原料の海外依存度が高くなり、港湾の所在地が原料供給地となり、港湾に近くさらに消費地に近い方が企業採算上有利となり、各工業は港湾近くの臨海部に拡張の地を求めてきた。

このような臨海部に於ける工業用地の需要は、経済の急速な成長、特に鉱工業生産の驚異的伸長と、重化学工業の大巾の伸びに伴う工場用地需要の激増によつて、「埋立ブーム」という言葉まで生みだしたのである。即ち既成工業地帯では面積と価格の面に於て立地を至難とし、また重化学工業のウエイトが増大してくると、工業用地としては単独の孤立した工場用地を求めるよりも、コンビナート化された工場群の大集団用地を必要とし、いよいよ工場用地はマンモス化し、かつ原材料及び燃料の大部分を外国に依存していることから、港湾施設の築造が可能で、工業用水の豊富な、消費市場に近い立地を希望し、自然に海面の埋立による用地造成を必要としてきた。

2. 名古屋港に於ける臨海工業地帯開発の構想

名古屋港の現況を一言でいえば、横浜・神戸・大阪と並ぶ貿易港で、その特色は比較的後進港でありながら、商港的には繊維原料の輸入と陶磁器の輸出を中心として、２００近いラインにより世界の港と結ばれ、出入貨物は外国貿易６００万屯、内国貿易1,１００万屯、計1,７００万屯を取扱う中部経済圏唯一の門戸である。

工業港的発達をみると、近年まで当地方の産業構造が、繊維を中心とした軽工業であつたので、港湾に立地するような重化学工業としては見るべきものがなかつた。しかし最近当地方経済の目覚ましい発展と、産業革命ともいうべき重化学工業の伸びは、港を中心とする大工場群を必要とし、こゝに名古屋港をセンターとする一大工業港を中核として、中部経済圏を発展させる目的で、臨海工業地帯造成の方針を次の通りに定めた。

(1) 商港との関連及び港内自然條件を勘案しつゝ、臨海工業地帯に可能な限り広い面積を確保するため、ほゞ水深－５ｍまでの海面をN.P.＋4.8 mに埋立てる。

(2) 知多半島沿いの天白川口より日長に至る地先に、南部臨海工業地帯を、海部郡地先に西部臨海工業地帯を計画する

(3) 主として地耐力を考慮し、新才三紀層が浅いところにある南部を重化学工業用地に、沖積層が比較的に深い西部を一般工業用地に当てる

(4) 航路浚渫は当面１２ｍとするが、将来は１６ｍに浚渫する

(5) 現在堀川・新堀川沿いの地区に集中している木材工業の現状と、防災上の見地より新たに西部工業地帯の一部に木材港を新設する

(6) ほゞ港湾区域を包含し、知多半島長浦より鍋田干拓地に至る高潮防波堤を築造し、港内に於ける高潮と波高の減少を計り、又海岸線に防潮壁を築造する

以上名古屋港に於ける臨海工業地帯の開発方針について述べたが、これに関連する背後地の交通施設と、工業用水については、道路はすでに建設省の手で名四国道の建設が着々進められており、南部については二級国道名古屋半田豊橋線のバイパスが、県によって実施されんとしている。鉄道も南部は東臨港線より、西部は西臨港線より延長敷設が計画されている。工業用水については、木曽川水系の高度利用を計ることとし、愛知用水及び第二期濃尾用水などの事業により、用水確保の方策が進められている。臨海工業地帯造成事業の大略は次の通りである。

南部臨海工業地帯

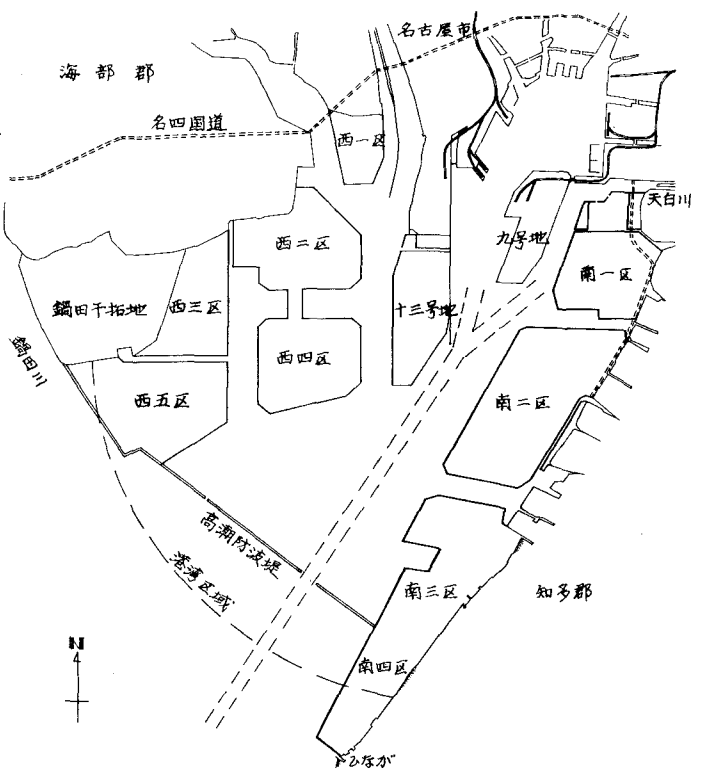
地区	面積	事業費	利用計画
南一区	958 万坪	約350億円	東海製鉄, 大同製鋼, 愛知製鋼, 東邦ガス, 化学工業, セメント, 火力発電, 石油精製, 造船, 造機, 其の他
南二区	2,196		
南三区	1,580		
南四区	980		
計	5,714		

西部臨海工業地帯

地区	面積	事業費	利用計画
西一区	360 万坪	約220億円 但し補償費を含まず	木材港, 木材加工業, 商港拡張用地, 鉄鋼関連工業, 石油関連工業, 機械工業, 其の他,
西二区	1,300		
西三区	900		
西四区	1,200		
西五区	1,420		
計	5,180		

3. 臨海工業地帯造成の現況

以上の構想により、南部臨海工業地帯を570万坪、西部臨海工業地帯520万坪の土地造成を計画し、昭和34年7月東海製鉄株式会社と製鉄所建設に関する協定を締結してより、そのレイアウトに沿い早期建設を図るため、昭和35年4月南二区より埋立に着手し、昨年度約35万坪を造成したが、東海製鉄の進出を契機として一連の関連産業が踵を接して進出して来たので、10月より南一区の埋立にかゝり、昨年度約20万坪を造成した。

現在この南一区と南二区の造成に稼働しているポンプ船は、4000馬力のものをはじめ、総数34隻総馬力数約74,000馬力に及んでいる。

名古屋港臨海工業地帯造成計画図